

## 平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人電気通信大学

### 1 全体評価

電気通信大学は、「高度コミュニケーション社会」を支える総合的な科学技術を「総合コミュニケーション科学」として創造し発展させるとともに、それに必要な人材を育成することにより、わが国はもとより国際社会に貢献することを目指している。第2期中期目標期間においては、国際標準を満たす基礎学力の上に、国際性と倫理観を備え、実践力に富む人材を育てること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、「総合コミュニケーション科学」の世界拠点に適した教育研究組織の構築や革新的学際分野の創造、イノベーティブかつグローバルな人材育成と社会人教育の充実・強化を図るため、1学部2研究科を1学域1研究科に改組再編することを決定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### 大学の機能強化に向けた取組の状況について

光科学および物理学分野の世界的研究拠点を構築するため、レーザー新世代研究センター及び量子科学研究センターから組織されるコヒーレント光量子科学研究機構を平成28年度に設置することを決定している。

また、役員、内部監査室、監事及び会計監査人からなる四者協議会を6月及び10月に開催したほか、監事会を4月、9月、12月に開催し、監事と内部監査室との相互の連携を充実させることで、法令遵守体制の強化を図っている。

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

#### ○ 強み特色を生かした研究実施体制の改革

広範囲な光科学応用研究を行う世界的な中核拠点を構築するため、レーザー新世代研究センター及び量子科学研究センターから組織されるコヒーレント光量子科学研究機構を平成28年度に設置することを決定している。

#### ○ ライフイベント期の女性研究者への支援

ライフイベント期にある女性教職員の支援として、在宅勤務制度や病児・病後児等の保育支援制度等を設置し、子育てしやすい環境の整備をした結果、厚生労働省から子育てのサポート組織として、くるみんマークの交付を受けている。

#### ○ 学長のリーダーシップによる資源の戦略的な重点配分

学長裁量経費を約3億2,000万円（対前年度比約2億2,000万円増）確保し、学生の海外派遣支援や女性研究者採用に係る取組のほか、「UECビジョン2018」を踏まえた機能強化に特に資する事業について、学長のリーダーシップにより配分を行っている。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 外部資金の獲得に向けた取組

「研究活性化支援システム」による有望な研究に対して外部資金獲得のための支援をするとともに、リサーチ・アドミニストレーター (URA) により国や地方自治体等の予算・政策等に関する情報収集及び研究プロジェクトの企画提案・マネジメント等の支援をしている。地域企業等との共同研究については、平成26年度の1億8,700万円から、平成27年度には2億円に増加し、受託研究についても前年度の51件、11億7,300万円から、平成27年度には59件、16億5,800万円へと件数、金額ともに増加している。

### ○ 省エネルギー対策の推進

消費電力の削減を図るため、照明器具のLED化や屋上面に遮熱コーティングをしたこと等により、平成26年度と比較して年間使用電力量で約21万kwh、電気使用料金で約3,700万円を削減している。また、省エネルギー対策等の取組の結果、「サステイナブルキャンパス推進協議会」が実施するサステイナブルキャンパス評価システムで、ゴールドレートの認定を受けている。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④情報セキュリティ

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

---

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 他大学との連携による教養科目の設置

情報理工学研究科においては、専門に偏らない幅広い視野を涵養するため、東京外国語大学との相互連携協定に基づいた大学院教養教育科目「環太平洋圏の社会と文化」を開講している。

### ○ データアントレプレナー育成のための寄附講座開設

自学で初めての寄附講座「IT融合とビッグデータ利活用イノベーション人材（データアントレプレナー）育成講座」を開設し、カンファレンスと集中講義を実施し、データサイエンティストの素養とビジネス開拓マインドを身につけた人材の育成に取り組んでいる。